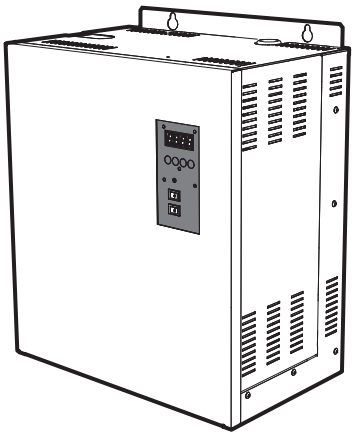
Wetmaster®

施工業者様向け

空調機・チャンバ組込用
電熱式蒸気加湿器

WM-SJBタイプ

試運転作業要領書



SJB03/SJB07
SJB14/SJB28
SJB42/SJB56/SJB85

- このたびはウエットマスター電熱式蒸気加湿器をご採用いただき、まことにありがとうございます。
- この試運転作業要領書には加湿器の施工および設定要領書での設定が完了した状態において、加湿器が正常に作動するかの試運転手順について記載しています。この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、作業の前に必ずお読みいただき、正しい作業を行ってください。
- 本加湿器は供給水に、軟水または一次純水を使用します。軟水をご使用の場合は、軟水器の説明書類も必ずお読みいただき、正しい施工・取り扱いをお願いします。
- 本書の内容以外に関する説明は下記を参照し、該当するドキュメントをご確認ください。

施工要領書	設定要領書	取扱説明書
加湿器本体の取付、給排水接続、電気配線（計装）など、加湿器の施工に関する説明を記載しています。	出荷時設定から変更を行う場合の手順について、記載しています。	運転動作、運転管理、一般保守要領など、加湿器の取り扱いについてを記載しています。

もくじ

安全のために必ず守ること…… P.1

1 はじめに
- 1-1 出荷時設定一覧…… P.2
- 1-2 本体各部の名称…… P.2
- 1-3 運転管理項目の一覧…… P.4

2 試運転
- 2-1 試運転準備…… P.5
- 2-2 試運転…… P.5
- 2-3 試運転チェック項目 …… P.6
- 2-4 試運転後の作業…… P.6
- ■試運転チェックリスト …… P.8

3 エラーコードが表示されたら
- 3-1 警報表示について …… P.9
- 3-2 予報表示について …… P.10

4 参考
- 4-1 疑似警報発報手順とリセット方法 …… P.11
- 4-2 停電試験を行う場合 …… P.11
- 4-3 加湿器型番、シリアル番号、ロット番号表示位置…… P.11

安全のために必ず守ること

- この「安全のために必ず守ること」をよくお読みの上、取り扱ってください。
- ここに記載した注意事項は、安全に関する重大な内容です。必ず守ってください。
- 誤った取り扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。

⚠警告	誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡、重症を負う可能性があるもの
⚠注意	誤った取り扱いをしたときに、使用者が軽傷を負う可能性や物的損害の発生に結びつくもの

- 図記号の意味は以下のとおりです。

必ず守る	絶対しない	触らない	濡手禁止 絶対に濡れた手で触らない	水濡禁止 絶対に水に濡らさない

⚠警告

取付工事は、専門業者に依頼する
取付工事に不備があると、水もれや感電、火災等の事故の原因になります。

高所作業時の安全を確保する
高さが2メートル以上の箇所で作業を行うときは、適正な足場を確保し安全帯を使用する等、墜落による作業者の危険を防止するための措置を講じてください。

作業時は、けが防止のため保護用手袋を着用する
やけど・けがの原因になります。

活線作業を行う際は、絶縁用保護具を着用するか、活線作業用器具を使用する
適切な保護具、器具を使用しない場合は感電の原因になります。

電気配線は所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する
取付工事に不備があると、接続や固定が不完全な場合は、発煙、火災の原因になります。

運転中および運転停止直後の本体内部・蒸気ホース・蒸気噴霧管・接続配管には触れない
高温部に触れるとやけどの原因になります。

電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規定」および製品添付の説明書類に従って施工する
電源回路要領不足や取付不備があると感電・火災の原因になります。

加湿器元電源には、必ず加湿器専用の漏電ブレーカを取り付ける
漏電ブレーカが取り付けられていないと感電の原因になります。

改造はしない
故障や水もれ・感電・火災の原因になります。

加湿器本体・操作パネルに水、液体をかけないこと
ショート・漏電・感電・事故・発煙・火災の原因になります。

濡れた手で電気部品に触れたり、スイッチ・ボタンを操作しない
感電・事故・発煙・火災の原因になります。

運転中および運転停止直後の電気部品に素手で触れない
やけど・感電の原因になります。

本体から蒸気噴霧管までの間に、蒸気量制御用のバルブ等を設置しない
加熱タンクの内圧が上昇し危険です。

⚠注意

アース接続（D 種接地工事）を行ってください
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。

加湿器停止に起因する安全上の問題や、設備・物品などへの障害・リスクが想定される場合は、バックアップ機を設置する
加湿器は故障や誤動作が発生した場合や保守点検作業の際に運転を停止します。

水道法、消防法等に規制される部材の取り扱いについては、専門業者に依頼する
法令を遵守した施工が必要です。

高温になる排水配管は露出しないよう保温工事を行う
保温が行われない場合やけどの原因になります。

給水配管は結露が生じないよう保温工事を行う
結露が生じた場合、水もれによる事故の原因になります。

1 はじめに

1-1 出荷時設定一覧

- 施工終了後は必ず試運転を行い、異常がないことを確認してください。
- 本加湿器の出荷時の設定状態は以下のとおりです。

設定項目	出荷時の設定状態
最大蒸気発生量出力設定	100%
入力信号設定	電流比例式制御信号入力 4-20mA
水質ブロー設定	軟水
予熱設定	なし
定期点検表示機能設定	表示機能なし

1-2 本体各部の名称

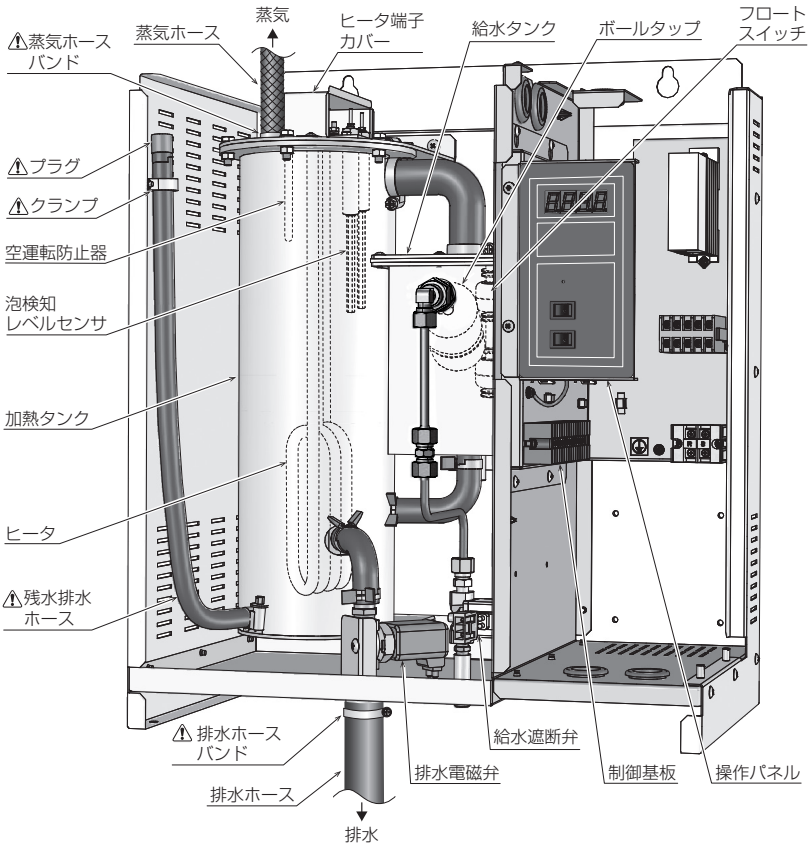
1-2-1 本体各部の名称

⚠警告

試運転前に必ず⚠マークを付記した部位の閉止を確認する

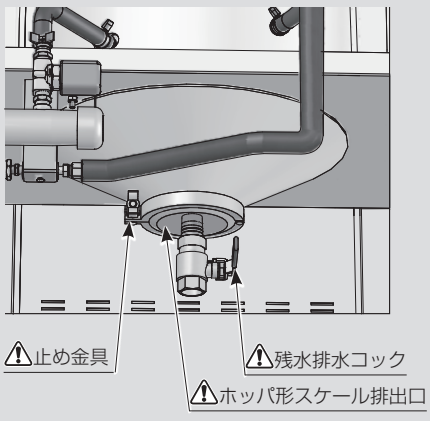
❗運転中に開放したり開放したまま運転すると、蒸気やドレンの噴出によるやけどや、水もれ等の事故の原因になります。

図 -1

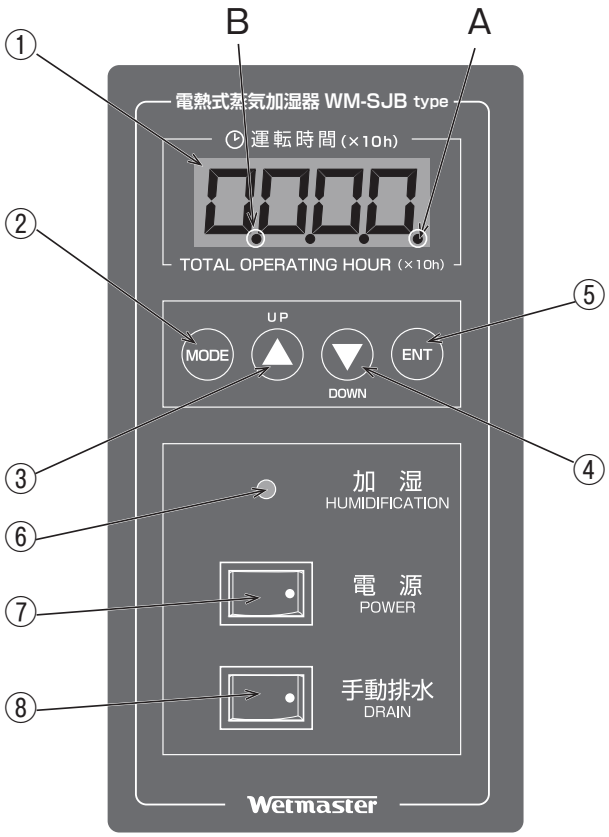


※左図は SJB03 で説明しています。型番により構造などが異なるものがあります。SJB42 ～ SJB85 では、残水排水ホースの代わりに加熱タンク下部に残水排水コックがつきます（下図参考）。

SJB42 ～ SJB85 の加熱タンク下部



1-2-2 操作パネルの機能と各部の名称



①表示部
加湿器の運転時間（× 10h）や各種設定を表示します。
※表示される時間の 10 倍が実際の時間となります。

② MODE ボタン
加湿器の各種設定の確認、設定に使用します。

③ UP ボタン
表示項目の切替や、数字の変更に使用します。

④ DOWN ボタン
表示項目の切替や、数字の変更に使用します。

⑤ ENT ボタン
設定項目の決定に使用します。

⑥加湿表示灯（赤）
加湿器が加湿運転中、赤色に点灯します。連動運転している場合、連動台数設定エラー時および通信異常時に点滅します。

⑦電源スイッチ
加湿器の電源を ON/OFF します（○部を押すと ON になります）。

⑧手動排水スイッチ
加湿器の加熱タンク内の水を排水します（○部を押すと ON になります）。

【表示部（①）の詳細】

A の点灯／消灯：低水位表示
加熱タンク内の水位を検知し、点灯 / 消灯を行います。操作パネルの電源スイッチ ON 後、加熱タンク内の水位が低水位の場合に、ドットが点灯します。この表示が消灯しないと、加湿運転は開始しません。

B の点灯／消灯：予熱機能表示
加熱タンクの予熱機能の設定有無を表示します。予熱機能を設定している場合、水温は 70 ～ 80℃となり、表示が点灯します。
なお、予熱機能が設定されている場合においても加湿運転中やファンインタロック OFF 時に表示は消灯します。

1-3 運転管理項目の一覧

- SJB タイプは下記表内の６種類の運転管理項目を表示し、確認することが可能です。各項目の内容は下表を参照してください。
- 各項目を確認するための操作方法は図 -2 を参照してください。

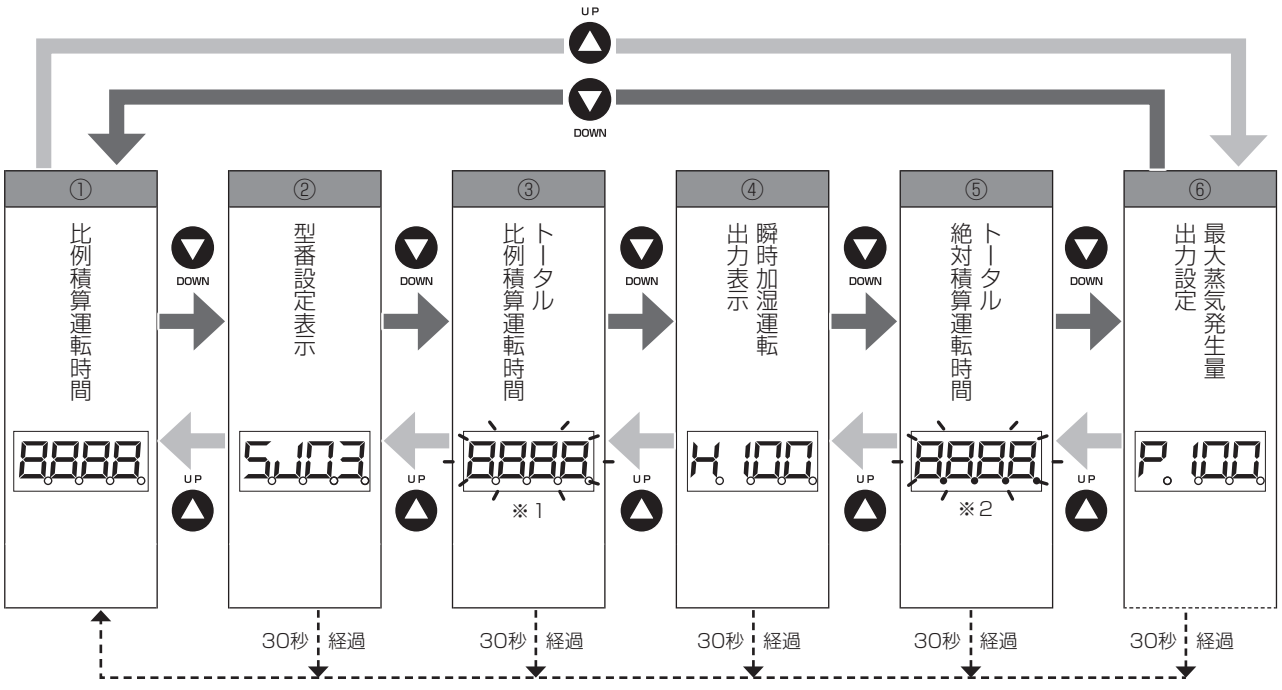
No.	表示項目	内　容
①	比例積算運転時間	▪ 比例運転におけるフル運転換算時の運転時間を積算し表示します。 （例：出力 50%、20 時間運転の場合、比例積算運転時間は 10 時間） ▪ 運転時間のリセットおよび時間変更が可能です。 ▪ 比例積算運転時間のリセットおよび時間変更の操作については設定要領書をご参照ください。
②	型番設定表示	▪ 加湿器型番を表示します。
③	トータル比例積算運転時間	▪ 比例運転におけるフル運転換算時の延べ運転時間を積算し表示します。 ※このときの運転時間は**リセットできません。**
④	瞬時加湿運転出力表示	▪ 入力信号値を算出し、瞬時パーセント表示を行います。 ▪ 5秒毎に自動更新します。表示は下3桁で 1%毎の表示です（例:5%のとき⇒H005、100%のとき⇒H 100）。 ▪ 蒸気発生量の上限設定が行われている場合においても、その型番の最大蒸気発生量に対する加湿出力を表示します（最大蒸気発生量上限設定が「50%」の場合においても、入力信号要求が「100%」であれば、「100%」が表示されます）。
⑤	トータル絶対積算運転時間	▪ 加湿器の比例出力に関係なく加湿器が運転した延べ時間を指し、その積算時間を表示します。 （例：出力 50%、20 時間運転の場合、トータル絶対積算運転時間は 20 時間） ▪ 加湿表示灯が点灯した時間と同等です。 ※このときの運転時間は**リセットできません。**
⑥	最大蒸気発生量出力設定	▪ 設定した蒸気発生量の上限値をパーセント表示します。（出荷時設定は 100% ＝P 100 ） ▪ 設定範囲：20 ～ 100%（設定ステップ：5%毎） ▪ 最大蒸気発生量出力設定の操作については設定要領書をご参照ください。

図 -2

- 操作パネルの【UP ボタン】または【DOWN ボタン】を押すと、下図の順序に表示部が切り替わります。
- 図中の②～⑥の項目は、無操作で 30 秒経過すると、自動的に①比例積算運転時間の表示へ切り替わります。

※1：数字のみ点滅します（ドットは点滅しません）。

※2：数字・ドット全てが点滅します。



2 試運転

2-1 試運転準備

⚠警告

作業時は、けが防止のため保護用手袋を着用する

❗けが・やけどの原因になります。

試運転前に P.2 図 -1 の⚠マークを付記した部位の閉止を確認する

❗開放したまま作業すると、やけどや水もれ等の事故の原因になります。

● 試運転前には下記の諸点を必ず確認し、不都合な点があれば必ず修正してください。

- □ 加湿器本体、蒸気ホース、蒸気噴霧管が正しく取り付けられていること
- □ 給排水配管が正しく施工されていること
- □ 給排水配管が保温されていること
- □ 配管各部の締め忘れ、締め不足などがないこと
- □ 給水配管のフラッシングが行われていること
- □ 各電気配線が正しく接続・固定されていること
- □ 制御信号の種類とパラメータの設定が合っていること（設定要領書を参照）
- □ 給水水質の種類とパラメータの設定が合っていること（設定要領書を参照）
- □ 残水排水ホースのプラグが閉止され、クランプで固定されていること（SJB03 ～ SJB28）
- □ 加熱タンク残水排水コックが閉止されていること（SJB42 ～ SJB85）
- □ ホッパ形スケール排出口の止め金具が閉止されていること（SJB42 ～ SJB85）

● 信号端子台接続確認をしてください。ヒューミディスタットの出力を最大（100%出力）にしてから、テスタにて端子台間の直流電圧を計測します。

制御信号	端子台番号	ヒューミディスタット 100%出力時の端子間正常電圧	異常原因
4-20mA 電流比例式	5（+）－ 6（−）	DC ≒ 2.8V	▪ 信号線の断線 ▪ ヒューミディスタットの故障または結線間違い ▪ 入力信号設定の設定間違い
0-10V 電圧比例式	3（+）－ 6（−）	DC ≒ 10V	
ON-OFF 式	7（+）－ 6（−）	DC ≒ 0V	

※入力インピーダンスは DC4-20mA：150Ω、0-10V：115kΩ です。

● 試運転開始にあたっては下記の準備作業を行ってください。

- □ インタロックをとった空調機を運転する
- □ 給水サービス弁を開ける
- □ 加湿器電源系統の漏電ブレーカを ON にする
- □ ヒューミディスタットの設定を最大にする
- □ 操作パネルの手動排水スイッチが OFF になっていることを確認する

2-2 試運転

1）電源 ON

操作パネルの電源スイッチを ON にすると「操作パネル表示部点灯と加湿表示灯点灯」⇒「基板プログラムナンバー表示」⇒「比例積算運転時間表示」の後、給水を開始します。

1. 操作パネルの電源スイッチを ON にします（P.3 参照）。

2. 表示部と、加湿表示灯が 3 秒間点灯します。

3. 基板プログラムナンバーが 1 秒間表示されます。
※ 例）プログラム番号 021 の場合の表示

4. 比例積算運転時間が表示されます（初期設定は 0 時間です。時間表示は× 10 時間ですので、試運転で 10 時間運転している場合は 0001 と表示されます）。
また、加湿運転可能な状態であれば、加湿表示灯が点灯します。

2）運転開始

加熱タンク内の水位が運転水位に達するまで給水された後、ヒータへ通電を開始します。この時、操作パネルの加湿表示灯の点灯を確認してください。外部信号を取り出している場合は、運転信号の出力も確認してください。なお、ヒータに通電を開始してから加湿蒸気発生まで、若干の立ち上がり時間を要します。

3）自動運転

運転開始後は、加熱タンク内の水位は給水タンク内のボールタップにより一定レベルに保たれ、運転を継続します。

4）定時排水

加熱タンク内の水の濃縮、スケール生成を抑制するため、運転時間に応じて定時排水（自動排水）を行います。

2-3 試運転チェック項目

⚠警告

試運転チェックの際に、本体内部、蒸気ホースおよび噴霧管、接続配管には絶対に触れないこと

❗ 運転中および運転停止直後の本体内部、蒸気ホースおよび噴霧管、接続配管は高温になります。

蒸気もれ・ドレンもれには十分に注意する

❗ やけど等の事故の原因になります。

- 試運転を 30 分以上継続して下記の項目をチェックし、不都合な点があれば必ず修正してください。
- 何らかの異常動作などが発生した場合は P.9「3-1 警報表示について」をご参照ください。その上で、なお原因が不明の場合は、弊社宛お問い合わせください。

□ 蒸気ホース接続部からの蒸気もれ、ドレンもれがないこと
□ 給排水配管からの水もれがないこと
□ 空調機内外や空調機吹出口での蒸気の再凝縮が問題にならないこと
□ ヒューミディスタットまたは指示調節器の信号に運転が追従すること
□ 空調機ファンインタロックが連動していること
※あらかじめ加熱タンク水の予熱機能を使う場合は、設定要領書に記載の「予熱設定」をご参照ください。

- 以下の項目は、必要に応じて実施してください。

□ 運転信号が出力するかどうかの確認
（空調機ファンインタロック ON かつ加湿要求 ON 時）
□ 疑似的に警報を発報させる
（P.11「4-1 疑似警報発報手順とリセット方法」参照）
□ 客先の指示調節計の設定値と加湿器本体側の表示値に差異がないことを確認する（対向試験）
（P.4「1-3 運転管理項目の一覧」を参照し、瞬時加湿入力信号の値が指示調節計の値と差異がないか確認）
例）加湿器側で「H100」が表示された場合、ヒューミディスタットまたは指示調節計側でも出力が 100% になっているか確認。

2-4 試運転後の作業

- 試運転のチェックが終了したら下記の手順で運転を停止してください。

1）インタロックをとった空調機を停止する。
2）給水サービス弁を閉める。
3）操作パネルの電源スイッチが ON になっていることを確認する。
4）操作パネルの手動排水スイッチを ON にして、加熱タンク内の水を排水する。
※排水が完了するまで 5 分～ 10 分ほどかかります。
※手動排水スイッチを ON にした後 20 分ほど経過すると、低水位検知の警報である「ELL」を発報する場合がありますのでご注意ください。もし警報が発報された場合、一度操作パネルの電源スイッチを OFF にし、再度 ON にすることでリセットが可能です。
5）排水完了後、操作パネルの手動排水スイッチと電源スイッチを OFF にする。
6）加湿器の漏電ブレーカを OFF にする。
7）ヒューミディスタットの設定を希望湿度に合わせる。

- 上記の手順で運転を停止したら、P.7 を参照して、給水ストレーナの点検・清掃および加熱タンクの残水排水を行ってください。

⚠警告

作業にあたっては、運転停止・手動排水後、必ず 2 時間以上置いて、機器および配管が十分に冷えたことを確認する

❗高温のまま作業すると、やけど等の事故の原因になります。

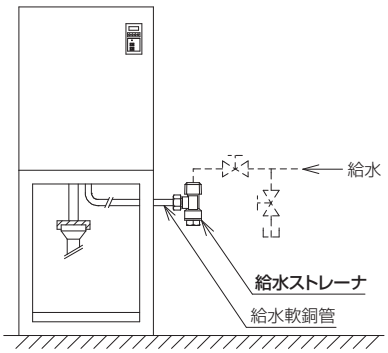
作業前に P.2 図 -1 の⚠マークを付記した部位の閉止を確認する

❗開放したまま作業すると、やけどや水もれ等の事故の原因になります。

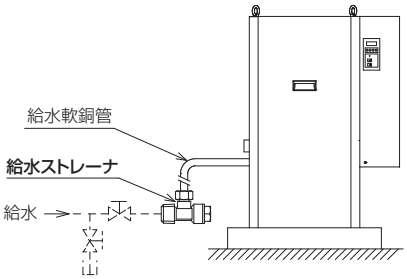
1)給水ストレーナを点検、清掃します(図 -3 参照)。
2)この状態で 2 時間以上放置して、機器・配管が冷えるのを待ちます。
3)加湿器本体内の加熱タンクの残水を排水します(図 -4 参照)。

図 -3 給水ストレーナの点検、清掃

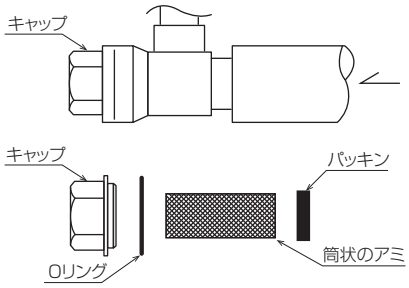
<SJB03~28>



<SJB42~85>



<給水ストレーナ詳細>　　工具 : モンキーレンチ



①2 本のモンキーレンチを使用して給水ストレーナのキャップをゆるめ、取り外します。

- モンキーレンチは必ず 2 本使用してください。
- 保温材を外すときは、復旧時の養生を考慮して行ってください。
- 内部の残水が出てくることがありますのでご注意ください。

②筒状のアミをきれいな水で洗います。

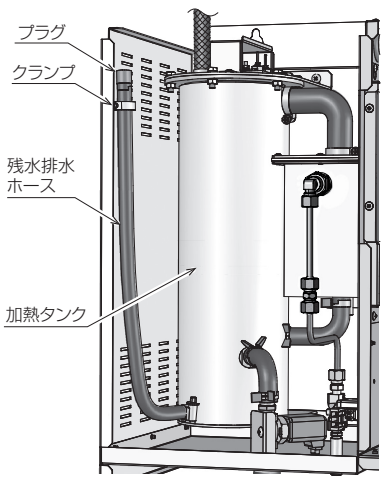
- 小さな部品なので、紛失にご注意ください。
- アミの内側にゴミ・異物が詰まっていないことを確認してください。
- キャップの O リングが切れていないことを確認してください。切れている場合は新しいものと交換してください。

③給水ストレーナを元のとおりに取り付け、キャップを締め込みます。
④給水サービス弁を開けて通水し、水もれがないことを確認します。
⑤保温材の養生を行います。

図 -4 加熱タンクの残水排水

※残水量は型番により異なります。水受け容器などをあてがい残水を受けてください。

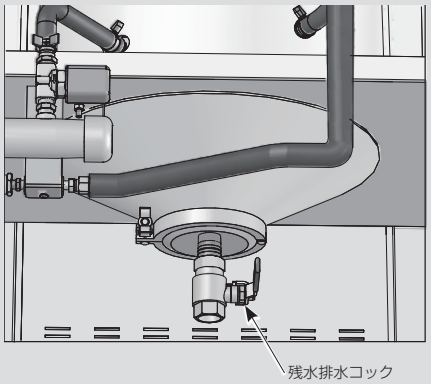
<SJB03 ~ SJB28>



残水排水ホースをクランプから外し、先端のプラグを抜いて排水します。排水後は、元通りプラグを差し込み、ホースをクランプで支持します。

<SJB42 ~ SJB85>

SJB42 ~ SJB85 の加熱タンク下部



SJB42 ~ SJB85 では、残水排水ホースの代わりに加熱タンク下部に残水排水コックが設置されています。残水排水コックを開けて排水し、排水後は元通りコックを閉めます。

SJBタイプ 試運転チェックリスト

対象機器：電熱式蒸気加湿器 WM-SJB03・SJB07・SJB14・SJB28・SJB42・SJB56・SJB85

物件名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

※本チェックリストは、必ず試運転作業要領書を一読してからご使用ください。

作業年月日：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

作業会社名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

作業担当名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Wetmaster（　／　）

- SJB タイプの施工後の試運転確認を下記の項目で実施いたしました。
- 機器単体の正常動作を確認するもので、能力検証を行うものではありません。

	確認項目	確認事項	備考	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8	No. 9	No. 10
❶	設置位置	設置位置の記録	階数、東西南北、部屋名、系統など										
❷	加湿器型番	SJB03・SJB07・SJB14 SJB28・SJB42・SJB56・SJB85	該当する加湿器型番を記入										
❸	Lot. No.	ロット番号の記録	加湿器本体側面のシールで確認する										
❹	シリアル番号	シリアル番号の記録											

	実施項目	確認箇所	判定基準	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6	No. 7	No. 8	No. 9	No. 10
①	加湿器本体設置確認	加湿器本体	加湿器本体が適切に設置されていること										
②	蒸気ホース設置確認	蒸気ホース	蒸気ホースが適切に設置されていること										
③	排水ホース設置確認	排水ホース（SJB03～SJB28のみ）	排水ホースが適切に設置されていること										
④	蒸気噴霧管設置確認	蒸気噴霧管	蒸気噴霧管が適切に設置されていること										
⑤	給水配管のフラッシング	現場給水配管・フラッシングバルブ	フラッシングが実施され供給水に汚濁･臭気が無いこと										
⑥	制御信号と設定の確認	操作パネル・信号用電線	制御信号とパラメータの設定が合っていること										
⑦	インタロック機器との連動確認	インタロックを取っている機器	インタロックを取っている機器を発停させて連動が取れていること										
⑧	運転信号出力確認	ー	インタロック接点と加湿信号入力接点が入力されている時、運転信号が出力されていること										
⑨	異常信号取り出し確認	過熱保護サーモのコネクタ	加湿器内の過熱保護サーモのコネクタを外し、エラーコード「EHd」が発報されることを確認する										
⑩	蒸気もれ、ドレンもれがないことを確認	蒸気ホース接続部	蒸気ホース接続部からの蒸気もれ、ドレンもれがないこと										
⑪	蒸気の再凝縮がないことを確認	空調機内外・空調機吹出口	空調機内外や空調機吹出口での蒸気の再凝縮が問題にならないこと										
⑫	水もれが無いことを確認	加湿器本体、給排水配管	30 分間運転を継続し、加湿器本体内部および配管各部から水もれの無いこと										

備考　【作業後の状態】 給水バルブ： 開・閉　電源スイッチ： ON・OFF　漏電ブレーカ： ON・OFF　ヒューミディスタット設定：　　% RH

【各設定の状態】 水質ブロー設定： 軟水・一次純水（供給水：　　）　入力信号設定： 4-20mA・0-10V・ON-OFF　定期点検表示機能設定： なし・あり　予熱設定： なし・あり

最大蒸気発生量出力設定：　　%

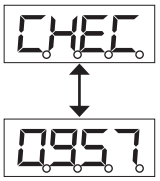
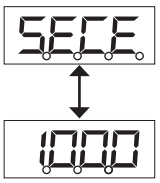
3 エラーコードが表示されたら

3-1 警報表示について

表示項目	警報表示	内容	本体の状態 / 対処方法
ヒータ過熱防止機能	EOH (EOH)	ヒータが過熱状態となった場合 (低水位によるヒータ露出時も含む)	運転停止（外部異常信号を出力） 【対処方法】ヒータの表面が汚れている場合は掃除してください。 また、加湿器への給水水質を確認してください。 【警報リセット方法】操作パネルの電源スイッチを OFF にし、再度 ON にすることでリセットされます。 ※必ず原因を解消した上で実施してください。
空運転防止機能	-(表示なし)	ヒータが過熱状態となり上記のヒータ過熱防止機能が作動しなかった場合	運転停止および操作不能**（外部異常信号は出力しません）** 【対処方法】**弊社宛サービスにお問い合わせください。**
低水位検知機能	ELL (ELL)	▪ 初期給水時 低水位状態が 1 時間以上続いた場合 ▪ 通常運転時および手動排水時 低水位状態が 20 分以上続いた場合	運転停止（外部異常信号を出力） 【対処方法】以下の 4 点に当てはまっているか確認してください。 · 給水サービス弁が閉止 · 手動排水スイッチが ON · 給水圧力が低い · 給水ストレーナが詰まっている 当てはまらなかった場合は**弊社宛サービスにお問い合わせください。** 【警報リセット方法】操作パネルの電源スイッチを OFF にし、再度 ON にすることでリセットされます。 ※必ず原因を解消した上で実施してください。
高水位・泡検知機能	-(表示なし)	▪ 高水位状態の場合 ▪ 泡立ちを検知した場合	警報を検知しない水位まで強制的に排水**（外部異常信号は出力しません）** 【対処方法】加湿器への給水水質を確認してください。 給水水質が原因ではなかった場合は、**弊社宛サービスにお問い合わせください。**
給水遮断弁過電流検知	FS (FS)	給水遮断弁の故障により過電流を検知した場合	運転停止（外部異常信号を出力） 【対処方法】基板と給水遮断弁を交換してください。
排水電磁弁過電流検知	Fd (Fd)	排水電磁弁の故障により過電流を検知した場合	運転停止（外部異常信号を出力） 【対処方法】基板と排水電磁弁を交換してください。
サーミスタ断線警報	EHd (EHd)	過熱保護サーモ（TH）コネクタの接続忘れや、断線時に表示されます。	運転停止（外部異常信号を出力） 【対処方法】 ▪ 過熱保護サーモのコネクタが接続されているか確認します。 ▪ 過熱保護サーモのコネクタが断線している場合は、**弊社宛サービスにお問い合わせください。** 【警報リセット方法】操作パネルの電源スイッチを OFF にし、再度 ON にすることでリセットされます。 ※必ず原因を解消した上で実施してください。
EEPROM エラー	EEP (EEP)	プログラムが保存データを上手く読み込めない場合に表示されます。	運転停止（外部異常信号を出力） 【対処方法】 ▪ 電源スイッチを一度 OFF にしてから再度 ON にし、再起動しても「EEP」表示が出る場合は、制御基板故障の可能性があります。制御基板交換については、**弊社宛サービスにお問い合わせください。**
型番未設定警報	SJOO (SJOO)	加湿器の型番が未設定	運転停止**（外部異常信号は出力しません）** 【対処方法】**弊社宛サービスにお問い合わせください。**
入力信号設定異常警報	.E.S.d. (.E.S.d.)	入力信号の設定が R135 になっている	最低水位まで排水後、運転停止（外部異常信号を出力） 【対処方法】入力信号を正しく設定してください（設定要領書参照）。 【警報リセット方法】操作パネルの電源スイッチを OFF にし、再度 ON にすることでリセットされます。 ※必ず原因を解消した上で実施してください。

3-2 予報表示について

● 加湿器本体が予報（注意喚起）を検知すると操作パネルの表示部に比例積算運転時間と交互（約 1 秒ごと）に表示を行います。

表示項目	予報表示	内容	表示例	本体の状態 / 対処方法
定期点検表示	CHEC （CHEC）	▪ ヒータ表面にスケール等が付着し、ヒータ表面の温度が上昇した場合に表示されます。	▪ 下記表示例は、比例積算運転時間が 9,570 時間で点検清掃の予報コードが表示された場合を表しています。 	▪ 加湿運転継続 【対処方法】 ▪ 定期点検を行ってください（取扱説明書参照）。ヒータ表面にスケールが付着している場合はヒータの清掃が必要です。 ▪ 交互表示の解除は、操作パネルの電源スイッチを一度 OFF にし、再度 ON にします。
点検清掃表示	SECE （SECE）	▪ 定期点検表示機能設定（設定要領書参照）が「あり」に設定されている場合に、比例積算運転時間がヒータ寿命の 10,000 時間（目安）を経過すると、表示されます。	▪「SECE」と比例積算時間の予報コードが表示されます（下記表示例参照）。 	▪ 加湿運転継続 【対処方法】 ▪ ヒータ交換の準備をしてください（弊社宛サービスにお問い合わせください）。 ▪ 交互表示を解除するには、比例積算運転時間をリセットする必要があります。リセット方法は設定要領書を参照してください。

4-1 疑似警報発報手順とリセット方法

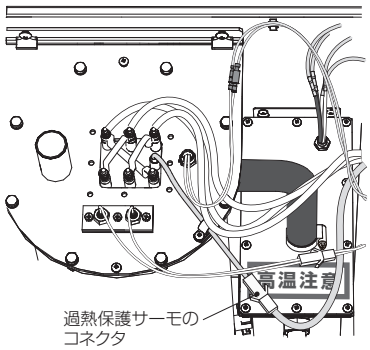
⚠警告 **作業時は、けが防止のため保護用手袋を着用する**

❗けが・やけどの原因になります。

- 擬似警報の発報でも、外部出力を行いますのでご注意ください。

①加湿器本体の電源スイッチを OFF にする（P.3「1-2-2 操作パネルの機能と各部の名称」参照）
②加湿器内の「過熱保護サーモ」のコネクタ（線の色：グレー）を外す（図 -5 参照）
③加湿器本体の電源スイッチを ON にする
④加湿器がサーミスタ断線の警報である「EHd」を発報することを確認する（P.9「3-1 警報表示について」参照）
⑤警報確認後、加湿器の電源スイッチを OFF にしてから「過熱保護サーモ」のコネクタを取り付ける
⑥加湿器本体の電源スイッチを ON にして、警報がリセットされていることを確認する

図 -5



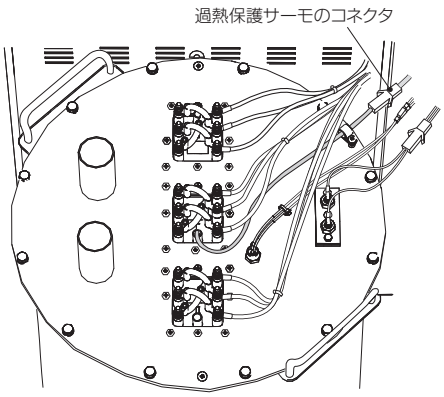
<SJB03～28>

4-2 停電試験を行う場合

⚠注意 **加湿器の停電試験を行う際は、必ず給水サービス弁を閉める**

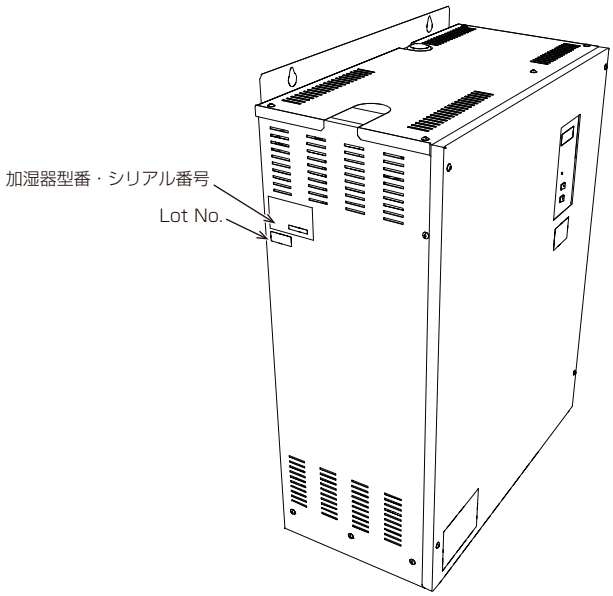
❗万一、給水遮断弁が故障している場合、通水状態で電源を遮断すると排水電磁弁が作動せず、漏水事故の原因になります。

- 運転中に停電が発生した場合は運転が止まり、復電時に運転を再開します。
- 瞬間停電の場合、停電時間が 0.02 秒以下では運転を継続し、0.2 秒を超えると運転を停止します。
- 異常中に停電となった場合、停電中に異常の原因が取り除かれれば、復電後正常運転に戻ります。

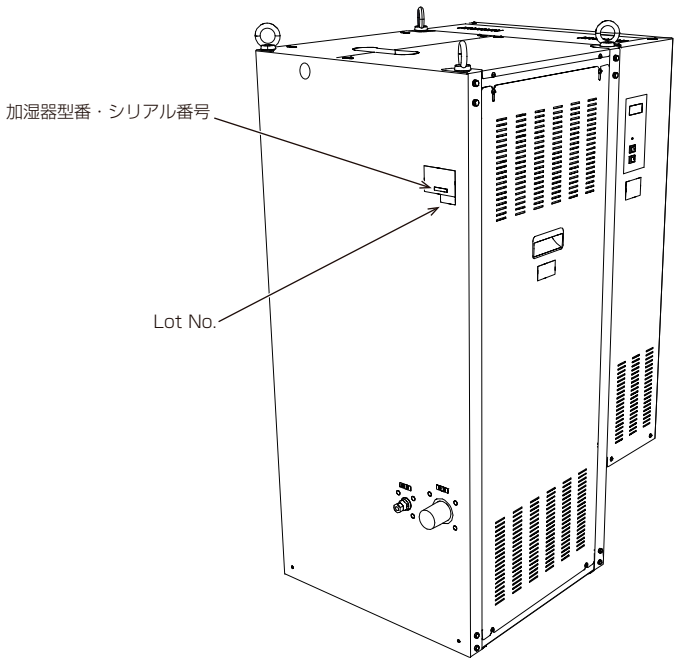


<SJB42～85>

4-3 加湿器型番、シリアル番号、ロット番号表示位置



SJB03 ～ 28



SJB42 ～ 85

ウエットマスター株式会社
https://www.wetmaster.co.jp
保守サービス営業本部 〒161-8531 東京都新宿区中落合3-15-15 WM本社ビル TEL.03-3954-1110 FAX.03-3954-1163
大阪支店 TEL.06-4790-6606　名古屋営業所 TEL.052-745-3277　仙台営業所 TEL022-772-8121　福岡営業所 TEL.092-471-0371
5710-023200